



はくび通信

第 205824 号



画像提供:大須商店街連盟

不易流行な持つ町商店街

毎年10月に開催される大道町人祭は日本三大大道芸の1つといわれ、今年で45回目を迎えます。大須商店街のいたるところで繰り広げられる大道芸人によるパフォーマンスやおいらん道中は、一般的な「祭」とは違う趣があり、ごつた煮の街と呼ばれる大須ならではの楽しさがあります。お祭り当日は、当寺も会場の一つですのでぜひ足をお運びください。

さて、今では「日本一元気な商店街」といわれる大須ですが、その歴史をたどってみると決して順風満帆ではなく栄枯盛衰を繰り返していることがわかります。

江戸時代の大須

八代将軍 徳川吉宗が享保の改革で質素節約を打ち出すなか、尾張徳川藩七代当主 徳川宗春は祭りをにぎやかに行いました。また、特権を持つ商人以外でも商売をできるようにし、現在の大須周辺に芝居小屋や茶店、遊郭の設置を許可しました。このような宗春の政策により、名古屋は活気にあふれ京などから人が集まったことから「名古屋の繁華に京(興)がさめた」とまで言われるようになりました。

ところが宗春の失脚により、芝居や遊郭は禁止となり活気に陰りが見えるようになりました。

明治から戦前の大須

明治時代の大須は、芝居や遊郭の復興もあり、再び活気を取り戻しました。大正元年、当寺が領地を開放すると娯楽以外の小売や飲食、写真館などのお店が立ち並び商店街となりました。残念ながら大正の終わりに遊郭が現在の大門に移転して、170あまりあった貸座敷や関連するお店もなくなっ てしまいました。

遊郭の移転は打撃でしたが、大須は、日本で3番目に開業した映画館を皮切りに、昭和初期には最大23館もの映画館がある街として新たな活気を生んでいました。

戦後から現在

戦後の大須は、戦災復興都市計画による「陸の孤島」化や映画産業の斜陽などにより、再び活気を失いつつありました。

そんな折、ある映画館の支配人が「大須は生まれ変わる」をキャッチフレーズに電気店と雑貨店が入る商業ビルをオープンしました。当時はまだ珍しかったディスプレイ制度を取り入れ、大須は秋葉原・大阪日本橋に並ぶ電気街にまで発展しました。

このように大須という街は、時代の波に翻弄されながらも、新しいものを取り入れると同時に、昔ながらの寺町の風情や情緒を残したり現代風にアレンジするなどしています。それが老若男女・国内外を問わず訪れる人を楽ませているのでしょう。

大須大道町人祭

10月19日(土)

2019日(真)

秋期 不動明王大祭

9月28日(土)

受付 9時半から14時半

信長の窮地を救った 霊験あらたかな 「身代不動明王」が 身代わりとなり、 護ってくださいませ。

◆ご希望の願目を 祈りたいします。

- ・厄難消除・無病息災
- ・病氣平癒・身体健全
- ・家内安全・交通安全 など

◆大般若一万円 (大般若礼身代わり餅)

◆祈 禱 五千元 (御礼身代わり餅)

ご予約は 総合受処 電話 WEB にて承ります

住職の小嘸

自分をコントロールしよう

今年も梅雨がここ50年の中でも3番目に入るほど短かったり猛暑日が多かったりと気候変動が目立ちましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

ことに猛暑というものは厄介で、頻繁な体温調節は自律神経の働きを乱します。自律神経が乱れると集中力や判断力も鈍くなりイライラにつながります。

イライラすることで自分の感情を抑えられず、欲のままに要求や考えを通そうとして周りの人とすれ違ってしまったという経験がある人は少なくないと思います。

今回は感情をコントロールし、より良い人間関係を築くための一つの手段として、お釈迦様の説いた真理・道諦の実践方法である八正道の正定に正しい精神統一に基づいた私の実践例と効果をお話します。

■実践していること

私は、忙しくて心に余裕がないときや気持ち不安定なときには、目を閉じてゆっくりと深呼吸をします。深呼吸には、自律神経を整えてイライラを落ち着かせる効果があります。またセロトニンという幸せホルモン

の分泌を促す効果があるとされています。

朝日を浴びたとき、仕事の合間、湯船に浸かったとき、寝る前など自分の時間のとれる好きなタイミング、たとえそれが短時間だったとしても自分だけの時間をつくるようにしています。ある程度まとまった時間がとれるときは、静かな場所で坐禅を組むこともあります。

雑念を捨て、何事にもとらわれず自分の根幹にある正しい信念をもって自分と向き合う時間をつくるのが「正定」につながると私は考えています。



■実践から感じた効果

私は、目を閉じて深呼吸をするという習慣をつけるようになってから、自分の要求や考えが一时的な感情に捉われていないかなど、客観的に自分を振り返り、感情をコントロールできる

機会が増えました。すると自分本位ではなく、相手のために何ができるか、相手に伝わる言葉を使っているかなど相手に寄り添う気持ちも自然と生まれてくるようになりました。

そして自分の感情をコントロールして相手に寄り添う気持ちが生まれると、自然と視野が広がるようで、今までより相手とのコミュニケーションが上手に進み、すれ違いが減ったと実感できています。

おかげさまで「昔に比べて丸くなったね」というお言葉をいただくことがあります。とはいえまだ私も「正定」を完璧に実践できているわけではなく「あの時こう言えばよかった」と後悔することもありますので日々精進しています。



この小嘸や大人の寺子屋では、私たちの人生と心を豊かにしてくれるお釈迦様の智慧を、現代で解明された知見と合わせてお伝えしています。それらが皆さまの心身の健康を保つ一助となれば幸いです。

万松寺住職

大藤 元裕

合掌

これからの行事

9/23 (月) 秋彼岸
9/24 (火) 合同法要

彼岸(浄土)と此岸(現世)が近くなることされる彼岸の時期に、追善供養を営みます。

9/28 (土) 秋期不動明王大祭

28日の不動縁日の中でも縁の強い春と秋に、大祭として大般若会を行います。

12/8 (日) 成道会

お釈迦様が悟りを開かれた日に、偉業を称え報恩感謝の法要を営みます。

スジャータまつり

成道会を祝うと共に、苦行で倒れたお釈迦様を救ったスジャータの功績を称えます。

スジャータまつり宵山 7日(土)境内

不動明王 縁日護摩 毎月28日

一部 15時~16時半
二部 19時~20時
身代わり餅つき18時~

●身代わり餅つき18時~

行事・祈禱・供養のお問合せ・お申込みは

052126210735 祈禱受処またはにて承ります。(年中無休)

忘れられない大切な人はいますか?

絆画展 「ともに生きること」

10.11(金)-13(日) 10:00-17:00

会場: 亀岳林 万松寺 白龍堂2階 白龍ホール

入場無料 作家絵日記展

仏教の豆知識



「仏さまの「おもい」に出会う」

皆さまはお寺などで、手を合わせた時、何かをつぶやいたりして、その姿を見かけたことやご自身が行った経験があるかと思えます。それを仏教では「念佛」を行うといえます。

念佛とは

念佛とは、字の通りに「佛（＝仏）さまを念ずる」という行いで、その意味は「仏さまをおもう」ということです。ただ、念佛の行い方は一つではないということをご存じでしょうか。

今回は、意外と身近な念佛についてお話します。

念佛するとは

仏さまをおもうということとは、実際に仏さまを見に行く、心の中に姿を思い浮かべる、お経をお唱えする、仏さまの名前をお唱えするなど、行い方にこれといった決まりはなく、人によって様々です。大切なことは、仏さまたちから投げかけられている力や思い、願いに応えるために、自分自身が思いを起こして行動すること、それが念佛をするということなのです。

念佛の行い方 宗派や地域などによっていろいろありますが、代表的な四つの念佛を紹介いたします。

実像念佛

実際に仏さまに出会う念佛。実物の仏さまに直接お会いして、お話を聞いて、触れて、存在を感じるものです。

偶像念佛

仏さまに出遇ったことがある人たちが彫つたり描いたりした仏像や仏画等に対して行う念佛。実際にお寺にお参りに行くこともこれにあたります。

観想念佛

仏さまたちの姿形、力、思い、願い、人柄などを僧侶や学識のある人に聞き、仏さまたちを思い浮かべる念佛。同じように仏さまたちに会いたいとおもう人達と一緒にすることもあります。

称名念佛

仏さまのお名前をお唱えする念佛。仏さまのことについていろいろと知らなくても、お参りに行けなくても、時間等がなくてもその場で行うことができます。

他に有名な念佛として、念佛を唱えながら鉦や太鼓などを叩き、踊りながら仏さまをおもう「踊念佛」というものが今でも根付いている地域もあります。

少し話はそれますが、夏の風物詩「盆踊り」は、お盆に故人の供養を兼ねて、集団で振りをそろえて踊る踊念佛や、お釈迦様の弟子である目連が餓鬼道に堕ちた母を救うことができたときに感動のあまり踊ったという逸話が起源になったという説もあります。このように日本の文化として残っている風習が仏教に由来するものが他にもあります。



話を戻しますが、念佛の行い方は、仏さまたちのお心のように自由なのです。

日ごろの生活の中で、皆さまがふつと心が思いだした時には、お参りに行ったり、手を合わせたり、お経や仏さまの名前をお唱えするなど、自分なりの念佛を行ってみてください。仏さまたちの「おもい」に出遇うことは、きっと皆さまの心に平穏をもたらすことでしょう。

今後の御朱印

限定御朱印

四季の限定御朱印秋
9月22日

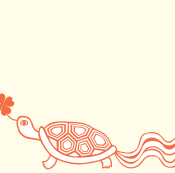


御朱印のイメージです

信長の和歌 記念書
10月12日

月詣御朱印

9月
災難消除



限定御朱印
10月 身体健全
11月 金運招福
秋彼岸
9月19日～25日



大人の寺子屋

～万松寺住職との
気楽なお茶会～



講師

万松寺住職 大藤 元裕

開催日

9月1日 10月6日
11月3日 *

時間

10時半～12時

参加費 300円
(お抹茶・お菓子付き)

*10月6日 参加無料(お抹茶お菓子無)

※急な行事などにより、日時・会場の変更や中止となる場合があります。

この「はくび通信」ご持参にて
1回無料でご参加いただけます

万松寺の仏教講座



坐禅会

毎週日曜日 9時～10時

写経会

毎月第2土曜日 16時～17時半

写仏会

毎月第1・3土曜日 16時～17時半

仏教勉強会

毎月第4土曜日 16時～17時半

参加費 500円

お申し込み・お問合わせ

WEB

万松寺学び舎

電話 052-262-10735

検索

万松寺日記

春期 不動明王大祭

令和6年5月28日(火)
身代不動尊のご真前にて災難消除、病氣平癒、無病息災、身体健全、交通安全、家内安全の祈禱を行いました。



武蔵川部屋 名古屋場所宿舎

令和6年6月25日(火)
～7月28日(日)
武蔵川部屋が万松寺を宿舎として名古屋場所に臨みました。7月12日(金)は、必勝祈願のご祈禱を本堂で行いました。



仏教講座展示会

令和6年7月12日(金)
～21日(日)
仏教講座の写経会(書初め)・写仏会に参加された皆様の作品を展示しました。



旧暦七夕

令和6年8月10日(土)
願いを込めて奉納された短冊に、諸願成就の祈禱を行いました。



お盆合同法要

令和6年7月14日(日)
8月10日(土)
～12日(月休)
ご先祖様や大切な方が浄土から現世に帰ってくる旧盆の時期に、追善供養を営みました。



家族葬見学会

令和6年8月10日(土)
～12日(月休)
万松寺の葬儀プランについて、祭壇やパネルを展示し個別相談形式でご案内しました。



迎え火送り火

令和6年8月12日(月休)
15日(木)
「迎え火」では、12日にご先祖様の精霊をお迎えしました。「送り火」では、15日にお盆の間一緒に過ごしたご先祖様の精霊をお送りしました。



施食会

令和6年8月24日(土)
ご先祖様と全ての精霊に、水の子をお供え、甘露門を読経する追善供養を営みました。



ヒューリック杯 第95期 棋聖戦第3局

令和6年7月1日(月)
藤井聡太棋聖に山崎隆之八段が挑戦した、ヒューリック杯第95期棋聖戦第3局が万松寺で行われました。
対局前日の前夜祭では、両棋士に対局への意気込みを語っていただきました。
第3局は18時46分に終局、藤井聡太棋聖が勝利し4度目の棋聖防衛を果たしました。
これにより、棋聖通算5期獲得で与えられる「永世棋聖」の資格を獲得し、中原誠十六世名人が持つ最年少記録を53年ぶりに更新しました。

